



21号

平成21年8月1日  
(2009)  
早稲田大学校友会  
佐倉稲門会発行 始  
事務局 竹鼻 始  
佐倉市上座1430-14  
☎ 043-461-2175

# 会の発展に向けて

佐倉稲門会会長  
花川 宏

平素より、当会に対し格別なご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

去る平成19年10月、母校早稲田大学は創立125周年を迎え、これを「早稲田大学第二の建学」と位置づけ、次の125年への新たな出発を致しました。

来る平成22年は、早稲田大学校友会創立125周年です。校友会本部そして千葉県支部が記念行事を計画しており、私ども佐倉稲門会もこれに合わせ記念行事を計画し、盛り上げていき

ます。

今年4月現在の千葉県下の校友数は3万8千名強で、その10%強が22の地域稲門会に入り親睦を深めています。7月に千葉県23番目の地域稲門会として、念願の四街道稲門会が発足しました。今後、東金市・山武市地域に稲門会が出来れば、千葉県

の殆どの地域に稲門会が存在することになり、千葉県支部を中心に各地域稲門会が連携をはかりながら、会の充実を深めていくことが期待できます。

ご存知のとおり、佐倉稲門会は、3原則「会員相互の親睦を図り、早稲田大学の発展に協力し、そして地域社会の文化向上に寄与する」に則って活動しています。

佐倉市・八街市・酒々井町および周辺の佐倉地域には1700名程の校友がおられ、その内2

会長の挨拶



(29年/理工)

## 佐倉稲門会 第23回定期総会

平成21年度佐倉稲門会定期総会は6月13日(土) ウィンストンホテル・ユーカーリで開催された。

総会は花川会長の挨拶のあと、会員の水野賢一衆議院議員から混迷を極める政治状況を拝聴、来賓の大久保勝康早稲田大学渉外局調査役から祝辞をいただき、会員の蔵和男佐倉市長の祝電が披露された。議事に入り、前年度の行事報告・会計報告、今年度の行事予定・予算案と役員改選が上程され全員一致で承認された。

総会終了後、竹本幹夫本学文学部教授に「坪内逍遙と能楽」と題した講演をいただいた。逍遙が目指した夢幻能、歌舞伎の改革等について力説された。(要旨は2頁に)

懇親会に移り、西川誠之県支部組織委員会副委員長と保谷貞男佐倉三田会代表幹事より祝辞をいただいた。途中で新会員お三方の自己紹介を交え、会は和やかに進んだ。

最後に松平副会長の指揮の下”都の西北”を歌い閉会した。

## 稲穂



校歌と大隈講堂ぬきの早稲田など考えられない。優秀な教職員と学生、元氣深刺のOBにこの2つがあれば、ワセダは永遠に不滅である。その大隈講堂で在学中、多数の内外著名人の話を聞いた。

小学校を4年で中退した松下幸之助氏は「諸君が羨ましい」といった。長者番付の常連だった松下氏は本当に羨ましそうな表情だった。「私にはとても学歴無用論など唱えられません」とも。ソニーの盛田昭夫氏の「学歴無用論」が話題になっていた頃だ。

ヤジでたじろいだロバート・ケネディが「都の西北」の大合唱で笑顔を取り戻した出来事も思い出深い。会場には若き日の小淵恵三氏も。政治家と記者。どこかで接点があってもいいのだが、直接会う機会は無かった。晩年、「小淵ですが」と首相官邸から電話があり、これが唯一の会話となった。本当は大隈講堂のロバート事件などゆっくりと話したかった。

大島信三 (39年/教育)

講演要旨

## 坪内逍遙と能楽

早稲田大学坪内博士記念演劇博物館館長  
早稲田大学文学学術院教授

竹本 幹夫

早稲田大学建学から百二十七年目の今年、坪内逍遙博士の生誕百五十年に当たります。逍遙と、一歳年下の市島春城（いちしましゅんじょう）と高田早苗、二歳年下の天野為之の四人は、大隈重信を支えて大学の基礎を作った、早稲田大学建学の四尊（しそん）と呼ばれています。今年から次々に、彼らの生誕百五十年記念イベントが学内で催されます。よろしくご覧賜ればと存じます。



さてその逍遙ですが、演劇博物館、略称演博（エンパク）を創立した昭和三年（一九二八年）からは、今年が八十一年目になります。その落成記念式典の席上、逍遙は自らが構想した演劇博物館の理念について、次のように述べます。すなわち、シェイクスピアがたんにイギリスのシェイクスピアであるにとどまらず、世界のシェイクスピアであるように、日本の古典演劇も、日本の歌舞伎から世界の歌舞伎へと飛躍する時が来るかもしれない。だからこそわれわれは日本国内の演劇のみならず、世界の演劇に対する視野を持ち、いつかそれらが本国で断絶したとしても、演劇博物館の資料によって復元できるだけの資料を集めなければならぬ。またこれらの資料を用いて、世界の演劇を比較研究するのだからならぬ。そのようにして、演劇を通じて世界の文化に貢献するのが、演劇博物館の使命なのだ、と。

世界に演劇博物館の数は少なくありませんが、すべてがその土地や地方の演劇に関する展示館で、世界演劇に対する視野を具えて収蔵・研究を行っているのは、実は本館のみです。逍遙の先見性をいかに表しているのが、早稲田大学演劇博物館なのです。

逍遙は明治十八年（一八八五）、早くも文学論書『小説神髓』や実験小説『当世書生気質』を著して、近代文学の先駆けとなりましたが、以後次第に演劇研究へと傾斜していきます。文芸協会を設立して演劇研究と俳優養成を一体化した、後世の欧米その他における演劇学部の先駆けとなるような活動を行い、日本全国を巡業するような公演まで実現しました。またシェイクスピアの史劇に触発されて、新たな史劇を構想し、その理念を実現すべく歌舞伎作品を新作、上演するなど、演劇界におけるその活躍は、多岐にわたっています。

このような逍遙ですが、日本

の古典演劇を代表する能・狂言については意外に冷淡で、歌舞伎の場合とは打って変わって新作は認めず、ひたすら伝統墨守すべきことを主張します。そもそも逍遙万巻の著作の中で、能に関する研究・評論は比較的少なく、それも評論的なものが中心です。逍遙にとって、能楽が主たる研究対象でなかったことは明らかです。

能楽が逍遙の文学者としての感性にあまり訴えることがなかった点について、その理由は逍遙の能楽に関する理論から推測することが出来ます。すなわち逍遙に言わせれば、能は成立が古い分、内容簡素で演劇として手の込んだものではなく、一口で言えば原始的であること。楽劇としてこれを評価する場合でも、その特殊な様式に応じて、文学的・音楽的・演劇的なそれぞれの研究が独立して行われねばならぬこと。能の様式性はすでに完成の域に達しているのだから、これに手を加えて新式の演出を工夫することは不可能であり、新作等も無意味であること。

逍遙のこの主張は、当時の能楽界ではあまり評判がよくなかったかのようですが、実は現在

でも逍遙の説からあまり遠くないところで能は研究されているのです。また新作能こそ盛んですが、それも近年のことで、二一世紀になるまでは、ほとんど実験の域を超えるレベルではありませんでした。逍遙の能楽論は二〇世紀初頭の明治四十年前後に集中していますから、新作の問題も含め、百年近くも逍遙の主張の正しさが裏付けられていると考えられます。

逍遙自身は自らを能楽研究者と考えていなかっただけで、やはり演劇学の大先達として、能についてもすぐれた先見性の持ち主であったといえましょう。

実は能のように、作品によっては、ほぼ六百年前の言葉のままで現代までも上演されている古典演劇というのは、世界に例がありません。古代ギリシア劇も、シェイクスピア劇も、その台本は現代語訳されたものです。逍遙は能のそうした特色をよく見抜いていたわけです。

（54年／大学院文学研究科博士課程）



## 平成21年度行事案内

### ●お花見会

4月5日(日)「実施済」佐倉城址公園にて満開の桜の下で参加者20名、天候に恵まれ盛会。会費1,000円。  
行方さんのキムチ鍋大好評。酔いまわり「飲み同好会」発足すべしのはなし出る、実現するか。

### ●里山散策と野草を食べる会

4月29日(水、祭日)  
早大なべの会OB会と合同で印旛沼サンセットヒルズにて実施。参加者計32名うち子供3名。周辺の里山で食べられる野草を採集し、キャンプ場で天ぷら、和え物、炒め物、味噌汁、などに調理し、野趣を堪能した。

### ●暑気払い会

8月22日(土) 18時～20時、ホテル日航成田  
ガーデンビュッフェパーベキュー  
食べ放題、飲み放題、4,000円(小学生以下2,000円)  
ホテルバスで送迎

### ●ゴルフ同好会(登録会員49名 募集中)

佐倉稲門会ゴルフコンペ年2回開催、次回9月予定。(前回4月3日、グリッサンドGCで実施、優勝渡邊信一氏)北総地区稲門会対抗ゴルフコンペ年2回開催、次回11月予定。(前回5月22日、グリッサンドGCで実施、参加49名、団体の部佐倉稲門会堂々の五連覇を達成。個人の部でも吉田喜久夫氏がベストグロスで準優勝、伊藤昭允氏、花川会長がベストテンに入る。)千葉県支部主催ゴルフコンペ、年1回開催、次回10年3月予定。(前回3月12日、習志野CCで実施、佐倉稲門会4名参加、柴田博氏がベストグロス)

### ●日帰りバス旅行会

10月24日(土) 紅葉の安達太良山・岳温泉  
散策下山コース、ハイキングコース、温泉入浴  
会費 7,000円

### ●家庭麻雀同好会

初心者中心の「芽生え」リーグと「メジャー」リーグの2リーグ制年4回開催 次は秋 10時～18時、場所「寄合」  
王子台2-7-19(料理一品、酒・ソフトドリンク)

### ●2009年度稲門祭

10月18日(日) 早稲田大学早稲田キャンパス他  
10時30分～ ホームカミングデー式典  
12時～ 稲門祭アトラクション  
15時～ 福引抽選会  
詳細；<http://www.waseda.jp/alumni/tomonsai/index.html>

### ●2009年千葉県稲門祭 12月5日(土)

ホテルニューオータニ幕張 詳細は別途案内

### ●坐禅に親しむ会

6月27日(土)「実施済」大佐倉勝胤寺にて(読経、坐禅、写経、茶話会 昼・精進料理)(好評でした) 2,000円  
15名参加 次回未定

### ●佐倉稲門会忘年会

12月12日(土) ウィッシュトンホテル・ユーカリにて

### ●囲碁同好会

8月6日(木) 佐倉稲門囲碁大会(佐倉ミレニアムセンター)



里山で野草採取

10月4日(日) 県支部囲碁大会(南流山センター)  
12月12日(土) 佐倉早慶親睦囲碁大会(佐倉老幼の館)  
1月28日(木) 佐倉稲門会囲碁大会(志津コミュニティセンター)

### ●能・謡曲を楽しむ会(稲謡会)

能・謡曲・花伝書の勉強など  
年2～3回「能」の観賞  
9月12日(土) 能「蟬丸」観賞 国立能楽堂

### ●俳句同好会

毎月第三土曜日、ジャスコ3階ミウズ  
会員最近の実作  
「烏雲に旅立つ前の身繕い」 坂田孟夫  
「八達嶺万里の壁に春疾風」 渡邊信一  
「大空の虜になるな揚雲雀」 松平武史  
「あたたかや観音様に手を合わせ」 澤谷英男  
「深草に背のびしているつくしんぼ」 田中育子  
「誕生の祝の宴雪あかり」 花川章子  
「友集う 貴様と俺と のどかなり」 佐藤 清  
「雪吊りや庭のあるじの心意気」 大島信三  
「福よ来い豆撒き小声老夫婦」 木原 亨  
「賞状に句説点なし花茶漬」 和田 勇  
「病む母のなにかものいふ麗かな」 高橋輝久

### ●ハイキング同好会

2008年秋に発足し、現在会員数18名  
今まで2か月に1度で都合4回のハイキング実施  
東京都の高尾山 千葉県のをくずれ水仙郷と津森山  
千葉県の富山 長野県の入笠山

### ●佐倉稲門会コンサート

10年3月27日(土) 佐倉市民音楽ホールにて「白鳥英美子コンサート」PM 4:00～  
チケット代 4,000円  
トワエ・モアでお馴染みだが、今回は1人で歌う。アメイジング・グレイス、愛は夢のようになど。尚、当コンサートは毎年恒例になっており前回「米良美一・美しい日本を歌う」は大好評であった。



入笠山にて

### 忘れ得ぬ早稲田人(二) 立原正秋

高田欣一

立原正秋からは、ずいぶん手紙をもらったが、佐倉へ越してくるとき、大きな段ボールの箱に詰めたまま、押入の奥にしまっただけだったので取り出せない。だいいち、どこの押入かも分らないのである。

そのころ、わたくしは文章を書くことを諦めていた。古いことはみな忘れてしまいたかったのである。

手紙はもらったが、小説は一冊も読んでいない。あんなにあんなに肩入れして貰ったのに、読む気がなかったのである。いまは読もうと思っても、書店の文庫本の棚に氏の本はどこにもない。かつては、ずらっと並んでいたのに。つくづく作家の栄枯盛衰を感じざるを得ない。

立原さんの手紙で、いまでも忘れられないのは、あるとき、人に頼まれて、氏の同人雑誌の仲間であったGという作家について、長い評論を書いたときである。氏は烈火の如く怒っていた。評論家は自分が心の底から感心していない作家については、

何も書くなというのである。

これには一言もなかった。わたくしは批評文を書くという仕事がいやになった。ひとは褒められれば喜ぶ。くさされれば怒る。だから、どうしてもほめることを生業としなければならぬ。その果ては、せいぜい他人の文庫本の解説をせっせと書くことで一生を終るのか。

立原さんのこの手紙が契機になったわけではないが、しばらくしてわたくしは書くことをやめた。四十になる少し前である。立原さんが、喉頭がんで亡くなったという新聞記事を読んだのは、それから何年か経って、河口湖のほとりにある義弟の家に滞在している夏のことであった。

わたくしは一度だけ、何かのパーティで会った氏のことを懐かしく思った。氏はわたくしが文藝雑誌に書いた丸谷才一の本の書評を褒めた。「よく書いた。あの小説が駄目な小説だといったのは君一人だ」

(38年/仏文)

### 緑陰

今年の総会の講演は竹本幹夫氏の「坪内逍遙と能楽」でした。

早稲田は世阿弥の「花伝書」を世にひろめた吉田東伍博士と、いい、ちよつとしたもので、プロ能楽師・狂言師もでている。

能は、本来「語り物の舞台化」であり、「簡潔な舞台、簡素な様式」を尊重し、余計な要素をいれないのが良いのであり、そこにおおきな広がり、イマジネーションの世界を創るということ、これは、五・七・五の俳句の世界に一派通じるものがあると思う。まあ、ちよつと小難しいところも似てるかも。

この「語り物」いわば台本が謡曲である。日本が世界に誇るのが、謡曲ということだ。

自分で謡って、楽しんで、健康にも良く、安上がりで、一生もので、良き仲間もつくれるなんてそうあるもんじゃなと思うんです。

そんなことで、同好会「能・謡曲を楽しむ会」(稲謡会)も活動しているので、どうぞのぞいてみてください。

「膝正し教盛謡う梅雨ごもり」  
高橋輝久(39年/法)

### 平成21・22年度 佐倉稲門会役員名簿

会 長	花川 宏(29理工)	幹 事	大島 信三(39教育)
副会長	西村 龍彦(38政経)	幹 事	吉田 喜久夫(44商)
	高橋 輝久(39法)	幹 事	田中 基雄(30政経)
	澤谷 英男(43商)	幹 事	山口 剛弘(37商)
	松平 武史(43商)	幹 事	和田 勇(38商)
幹事長	竹鼻 始(47理工)	幹 事	今井 順六郎(39文)
副幹事長	渡邊 信一(43理工)	幹 事	大沢 秀之(39政経)
	古場田 憲和(45商)	幹 事	吉野 信義(39法)
	中村 勇(60社学)	幹 事	川口 哲夫(40理工)
会計幹事	木原 亨(38商)	幹 事	大森 泰弘(45商)
		幹 事	佐原 俊夫(46政経)
		幹 事	諏訪 吉春(49商)
		幹 事	門脇 尚樹(50政経)
		幹 事	行方 正幸(52法)
		幹 事	寺嶋 啓修(H3商研)
		幹 事	森 問 迪康(30政経)

### 編集後記

去年・一昨年と会員拡大活動もあって、現在会員数は200名弱。その会員ひとりひとりが更に1人づつ新会員を開拓できたとなれば、会員数400名も不可能ではないわけである。早稲田人はだいたいが個性的な人が多いようで、佐倉稲門会員もいろいろな人がいて、いろんなことをやっている。この数年でいくつもの同好会があらたに誕生し、活発に活動している。最近スタートした「ハイキング同好会」などの活動にはめざましいものがある。

皆さんもなんでもよいのです、旗揚げしてみてください。そうすることによって更にお仲間も増え、活性化することにつながるでしょう。またよいとこ食いで、おおいに活用・参加したら面白いと思う。

そうでした、つついとお忙しくて年会費納入のお済みでない会員の皆様、納入よろしくおねがいたします。(高橋)